

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立大詫間小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の組織体制の充実が図られ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応ができた。</li> <li>・家庭学習習慣の定着に向け、「家庭学習がんばろう週間」等を通して内容や量などの質的改善を進めた。今後、テレビやゲーム等の視聴を含めた児童の生活習慣の見直しについて家庭との連携が必要である。</li> <li>・学校教育目標に掲げる「主体的な児童の育成」のため、意欲的に表現する力の育成や主体的に学びに向かう態度の涵養などに全校で共通実践した。さらに、教職員の指導の工夫や授業改善による基礎学力の定着を図り、確かな学力向上の取組を推進することが重要である。</li> <li>・縦割り活動の充実など異学年間の関係が深まり、学校全体としての集団作りを進めることができた。オンライン(ビデオ会議システム)を活用した交流学習等の教育活動を推進させた。</li> <li>・職員の時間外勤務が削減でき、業務改善の取組について一定の成果が得られた。ペーパーレスによる会議運営も定着してきた。引き続き、職員の働き方への意識変化に繋がるよう定時退勤日の設定や退勤の呼びかけなど丁寧に行っていく。</li> </ul>
---------------	--

2 学校教育目標	未来を切り拓き、主体的に行動する児童の育成
----------	-----------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 家庭学習の定着と生活習慣の見直しで、基礎的内容の定着と学力向上を図る。</li> <li>② 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業の質的改善を図る。</li> </ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上とする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・マイプランの成果指標について、「達成できた」または「だいたい達成できた」と全職員が回答した。(よくあてはまる55%、だいたいあてはまる45%)	B	・授業参観では、先生方が分かりやすく教える工夫が見られ、子どもたちも積極的に学習できていた。パソコン等、これからの時代にあった学習に今後も取り組んでほしい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○探求的な学習の中で、児童の主体的・対話的で深い学びを実現する指導の充実	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童90%以上とする。	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科の半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する他、感想や意見の交流で、考えの構築する授業に取り組む。 ・課題の明確化、振り返りの場を設定する。	B	・12月に実施したアンケート調査で児童生徒95%及び全保護者が肯定的に回答した。 ・話し合う活動の設定率は上がったが、学年や段階に応じ、より構造的な話し合い活動により、児童生徒の深い学びにつなげることが必要である。	B	・小規模の学校のため、中学や高校に進学した時に自分の意見を言える力をつけてほしい。 ・「大小フェスタ」では、子どもたちが堂々と発表する姿を見ることができ、力がついてきたことを感じた。	・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート項目「学校生活が楽しい・友達や地域の人に優しくできる」において、達成率を児童・保護者ともに90%以上とする。	・人権集会で命や思いやりについて考えさせ、児童の自尊感情を高める。 ・道徳科の授業づくりや評価に関する校内研修等を実施する。 ・「ふれあい道徳」を年1回確実に実施する。 ・異学年交流の充実。地域や他校との交流体験・交流学習を進める。	A	・95%の児童が「学校生活が楽しい」と回答した。道徳に関するアンケートにおいて、全保護者が肯定的な回答であった。 ・6月と12月に、児童の主体的な活動を伴った人権集会を実施した。11月の授業参観でふれあい道徳を実施した。道徳科の授業づくりに関する研修会を12月に実施し、教職員間の共通理解を図った。	A	・大詫間小学校の子どもは、素直で優しい子が多い。上学年と下学年の児童が仲良く遊び、よく世話をしている。 ・地域の中でも、互いに思いやりの心情や態度を大切に育てたい。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各担任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員95%以上とする。	・毎月、月初め「いじめ・いのちを考える日」の取組として「心のカード」を書く。 ・各学期に「教育相談週間」を設け、きめ細かな児童観察と支援を実施する。 ・「いじめアンケート」を年2回実施。全職員で情報共有を図る。	A	・学校のいじめ防止対策について全保護者が肯定的に回答。さらに全教職員が、いじめの組織的対応が「できている」「ほぼできている」と回答した。 ・7月と12月のいじめアンケート後に、校内研修を実施し、いじめの早期対応について全職員で共通理解をした。	A	・大詫間小学校の子どもは仲が良く、いじめがあるとは思っていない。学校が子どもたちの些細な事を見逃さずに、丁寧に指導しており大変良い。 ・家庭や地域も、子どもを見守っていくことが大切だと思う。	・生徒指導担当 ・教育相談担当 ・各担任
	◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童(6学年)90%以上とする。	・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(6年)は100%であった。 ・体験活動後の感想交流の場を通し、自身の取組を肯定的に評価する姿勢を育むことができた。	B	・大詫間小学校の子どもたちの多くが目標をもち、努力をしていることをうれしく思う。これからも、将来の夢をもってがんばってほしい。	・キャリア教育担当 ・教務主任 ・各担任
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●「健康に十分な睡眠は大切であると考え、決められた時刻に就寝できている」と回答した児童85%以上とする。	・「早寝・早起き・朝ご飯」等のアンケート調査や家庭訪問や個人懇談を活用し、児童個々の良好な生活習慣形成に向け、保護者の意識啓発と家庭の教育力向上を図る。 ・各学期実施する「家庭学習がんばろう週間」に合わせて、「生活習慣」の見直しについて保護者の意識化を図る。	B	・12月のアンケート調査では、77%の児童が達成できたことと回答。しかしテレビ及びゲームの視聴時間の長さに、なお課題が残った。 ・「家庭学習がんばろう週間」では、前回の反省を基に各学級で取組の周知と家庭への理解・協力を求めた。児童の家庭学習の取組意欲に改善が見られたが、今後も継続的な取組が必要である。	B	・PTAの中でも、子どもたちのゲーム依存やスマホ等の視聴時間について度々問題視している。 ・家庭間で情報を共有しながら、守るべきルール作りにより、積極的に取り組まなければならないと感じている。	・教務主任 ・生徒指導主任 ・保健担当
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○「安全に関する様々な課題に関心をもち、自他の安全な生活を実現しようと考え行動している」と回答した児童を、85%以上とする。	・教科等横断的なカリキュラムマネジメントに基づく計画的な指導を実施する。 ・事前指導・事前学習と事後指導・事後学習の取組を図る。 ・防災の授業を年5回、避難訓練を年3回実践する。(シヨートを含む)	A	・「安全に気をつけて生活できている」と回答した児童、「安全についての課題に関心をもちている」と回答した児童は、ともに90%を超えている。 ・「安全教育的年間計画のもとに、児童の防災・安全意識向上に向け指導を行っている」と全教職員が回答した。	A	・アンケートの結果から、学校で安全の教育や訓練がしっかり行われていることが分かった。 ・地域でも、今年「安全マップ」づくりに取り組んだ。今後地域としても、安全対策や防災訓練について、取り組んでいきたいと思う。	・安全教育担当 ・各担任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守し、毎月の時間外勤務を30時間以下とする。	・会議の内容の精選と併せて、会議資料のデジタル化を確立。ICT利活用による校務の効率化を推進する。 ・定時退勤日の設定、出退勤PC横に、平常日の退勤目標時刻を予告・表示する。 ・学校閉庁日を設定する。	B	・全職員の時間外勤務の月平均は27.8時間となった。 ・定時退勤日が徹底できた。また、目標退勤時刻を意識した働き方も定着している。多くの職員が成果を実感していたが、8%の職員が未だ課題があるとし、個々の業務改善の取組は継続が重要である。	B	・先生が、健康で元気に仕事ができることが子どもたちの成長には大事である。そのため、学校の「働き方改革」を進めてほしい。 ・下校時の見守り活動に地域や家庭も協力したい。	・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域・家庭と共に歩む学校づくり	○市民性を育む教育の推進 ○地域や保護者との連携	○「地域についての学習や行事に積極的に参加できた」「自分は地域の一員である」と回答した児童85%以上とする。	・総合的な学習の時間や生活科等と関連させ、地域の「人・もの・こと」等の地域の教育力を生かした学習を仕組む。 ・体験活動等、地域の人と触れ合う場を設定し、自己肯定感を高め、郷土を愛する心を育む。	B	・「地域学習に進んで参加できた」と回答した児童は、91%であった。 ・感染症の影響が残っていたが、総合的な学習の時間や生活科の学習活動の中で、地域の人と触れ合う機会を設定し、地域や郷土を愛する心を育んだ。	B	・9割の子どもたちが、「地域学習に進んで参加した」とアンケートで答えていた。感染対策をしてできることから取り組むことができた。また、地域の行事にも進んで子どもたちが参加していた。	・総合的な学習の時間担当 ・生活科担当
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員85%以上とする。	・毎月子ども支援会議の場を活用し、特別支援教育に関する情報共有や研修会を実施する。 ・個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づいた支援方針や配慮事項の共有を図る。	A	・個々の児童に応じた支援の充実に関して、全教職員が肯定的に回答した。 ・「子ども支援全体会議」での情報共有を活かし、配慮が必要な児童へ、全校体制での支援の充実を図った。	A	・大詫間小学校は小規模校であることから、全部の先生が、子どもたちのことをよく理解して育ててくれているは、保護者にとっても大変安心できることである。	・特別支援教育コーディネーター ・特別支援教育担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学力向上を図るため、家庭との連携・協働による家庭学習の定着や校内研究の推進による授業改善だけでなく、小規模校の良さを生かし、児童個々の理解の程度に応じた丁寧な指導を全職員で共通実践し、確かな成果につなげる。</li> <li>・学校教育目標に掲げる「主体的な児童の育成」のため、学校行事や各教科の学習の他、キャリア教育など全教育活動において児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組む実践をすることで、自ら表現しようとする態度の育成や主体的に学びに向かう意欲を伸ばす。</li> <li>・職員の時間外勤務削減や定時退勤日の定着に向けた取組は、一定の成果が得られている。また、会議の精選などの業務改善による効果も図られてきた。今後も、働きやすい職場環境づくりを推進し、時間外勤務の削減や職員一人ひとりの働き方への意識の変化に繋がるよう取り組みたい。</li> </ul>
----------------	---